道守 みちもり

MICHIMORI TSUSHIN

通信

vol.51 秋号

巻頭インタビュー

道を語り、考えることは
未来を語ること

山口 祥義氏（佐賀県知事）

みちづくし in かみみね 2026

道が結ぶ、人と地域の結節点

九州風景街道

令和８年度の活動・取組について

20周年に向けた九州風景街道としての動向

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろう。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



通潤橋（熊本県上益城郡山都町）

CONTENTS

01 巻頭インタビュー
道を語り、考えることは未来を語ること
山口 祥義（佐賀県知事）

02 みちづくし in かみみね 2026
道が結ぶ、人と地域の結節点
古代の官道から、街道、鉄路、そして道の駅へ

04 みちづくし in かみみね 2026
実行委員長あいさつ
基調講演

06 みちづくし in かみみね 2026
パネルディスカッション

09 みちづくし in かみみね 2026
現地体験学習

10 みちづくし in かみみね 2026
道守表彰者の紹介

12 道守50号記念対談（下）
塚原 健一、桑野 和泉

14 わたしの好きな道
宮崎の青い空・青い海につづく道
幸 美樹子

15 私たちの道守活動

18 九州風景街道
令和８年度の活動・取組について

20 道守人物伝・道守たちのトピックス・横顔

21 編集後記

表紙画：久冨 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭インタビュー

佐賀県知事

YAMAGUCHI YOSHINORI

山口祥義

道を語り、考えることは未来を語ること



道守　道守佐賀会議は、今年11月20・21日にみちづくしを開催します。これまで佐賀市で２回開催しましたが、今回は上峰町で開催します。日頃から道の清掃活動や、花壇づくりなど、地域の道を支えてくださっている九州各地の道守の仲間が集まります。知事には道守活動がどのように映ってらっしゃるのかをお伺いします。

佐賀県知事　道守の皆さんの活動は素晴らしいと思っています。道守の活動は「人生の道」になぞらえればわかりやすいと思います。自分が歩いている道は、綺麗でありたいし、楽しみもほしい。そして、仲間同士が繋がってほしいと思います。困難もあるけど、楽しいこともいっぱいあり、人と繋がる素晴らしさを知ることもできます。これから更に活動が活発になって子供たちもどんどん集まってきて、次の代に繋がっていけばいいなと思います。「みちづくし」については、これまでのような県庁所在地ではなく、上峰というまちで開催するということにも大変意義があると思います。

道守　町や道の駅で開催するのは初めてです。

佐賀県知事　道の駅は、みんなの出会うステーションなので、大変意義深いと思います。道の駅「かみみね」は佐賀県だけではなく、福岡方面などからも産品が集まっています。４００人以上の九州の道守の皆さんが集まり交流を深めることで、活動の輪が広がる。この出会いがどんどん広がってほしいですね。

道守　23年間頑張ってきた４００人の道守さんたちが道の駅に集まり、そこで九州各地の人たちと仲良くなって、他の方たちがどんな活動をされているかがわかるのがいいですね。

佐賀県知事　佐賀県は人口密度16位ですが、あまり人口が特定の地域に集中せず、万遍にどこにでも人が住んでいるという特徴があります。47都道府県で人口分散度日本一です。県内の道路ネットワークが大切なのです。今回、上峰町を通しているんなものに繋がることができるということは本当に意義深いです。

道守　道守佐賀会議は、春のひな祭りや、桜マラソン大会に合わせて、道路の清掃活動を行っています。佐賀で訪問客をお迎えする活動を続けてきました。こうした活動に、今後どのようなことを期待しますか。

佐賀県知事　道路が綺麗にされて、花も咲いていると、朗らかな気持ちになり、とても素晴らしい活動だと思っています。私は道守さんの活動をもっと全県的に広げたい。令和10年に佐賀県で開催する「全国都市緑化フェア」と「山の博覧会」でも、道をみんなで綺麗にし、花を植えていこうという活動が広まるように応援したいと考えています。

道守　この道守の活動を次世代につないでいくためにどのようなことが必要だと思われますか。知事のお考えや、またアドバイスをぜひいただければと思います。

佐賀県知事　私が子供のころは道というと砂利道で水たまりなどがあって、道を歩くことが結構大変でした。道自体も昔からすると大きく変遷しています。子供たちには昔は道ってこうだったとか伝えながら、道ができることで、出会う人も広がっていくことを伝えたいです。子供たちの未来の道は、私たちには想像もつかないものになっているかもしれません。道を語ることは未来を語ることだと考えています。子供たちにも参加してほしいと思います。

道守　佐賀県には玄界灘風景街道とありあけ海道～トレジャーロードという二つの風景街道があります。これは国土交通省の政策の一つであり、私たちは有明沿岸道路沿いの活性化を考えて、ありあけ海道～トレジャーロード～にいろんな人が来てほしいと考えています。有明海沿岸の風景や魅力を発信し、各町に観光で訪れていただきたいと考えています。私たちの夢は、佐賀空港から多くの観光客がリムジンタクシーに乗って観光できるようになることです。この思いがありあけ海道～トレジャーロード～を立ち上げたきっかけです。観光や地域の活性化は大切だと思いますがアドバイスをください。

佐賀県知事　東与賀や鹿島の干潟はラムサール条約に登録された場所でもありますし、農水産品・加工品など豊富な個性ある地域資源を生み出す最高のエリアだと思います。最近はキングダムをきっかけに東与賀公園そばの防波堤や空港に多くの人がきています。ロマサガやゾンビランドサガのファンも含め、それぞれの思いで、それぞれの形で佐賀を訪れてくださるのが、佐賀のよさだと思います。有明海沿岸道路が伸びていくにつれて、さらに選択肢が広まっていきます。

ただ、自動車ばかりに頼るわけにはいかないので、公共交通機関をしっかり充実させることも必要なことだと考えています。歩いて回ると楽しいところがたくさんあります。SAGAアリーナやスノーピークグラウンズ吉野ヶ里といった新たな拠点も設けられているので、そんな古きよき佐賀と新しく躍動する佐賀を周遊するような旅ができるのではないかなと思います。一緒に育てていきましょう。



■知事プロフィール

やまぐち・よしのり　東京大学法学部卒業後、旧自治省入省。内閣安全保障・危機管理室参事官補、過疎対策室長など幅広い職務につき、地方自治体でも要職を歴任。ＪＴＢ総研、ラグビーW杯組織委員会など民間等でも活躍。平成27年1月佐賀県知事に就任。

インタビュアー

道守佐賀会議　三原　代表世話人
ユキ江さん
顧問　渋谷　里美さん
世話人　石井　那知さん
岸川　富差子さん
事務局長　前田　耕介さん

みちづくし in かみみね 2026

道が結ぶ、人と地域の結節点

古代の官道から、街道、鉄路、そして道の駅へ

2026年11月開催　道守九州会議交流会・交流集会

五世紀 王墓 ― 江戸 長崎街道 ― 明治七年 佐賀の乱 ― 明治二十四年 長崎本線 ― 令和七年 道の駅かみみね

道が刻んだ、この地の記憶

上峰町は、佐賀県東部のほぼ中央部に位置し、南北に細長い形状を有する町です。長崎自動車道東脊振ICに近接し、国道34号など主要幹線道路へのアクセスにも恵まれていることから、人の流れを支える交通の要衝として発展してきました。

この地が要衝であったのは、今に始まったことではありません。五世紀、町内には王の墓が築かれていました。その王墓を含む一帯は「目達原古墳群」と呼ばれ、かつては大小の古墳が並んでいました。戦時中の飛行場建設により、王墓を除く古墳は失われます。戦後、地元の人々が、失われた古墳を縮尺で復元し、霊璽を祀り直しました。土地の記憶を守り継ごうとした心が、そのまま形になっています。


失われた古墳を復元し、霊璽を祀り直した公園

江戸時代には、小倉と長崎を結ぶ57里、約224㎞脇道であった長崎街道が、中原宿から神埼宿までの区間で町を東西に横断していました。ケンペルやシーボルト、平賀源内、吉田松陰、坂本龍馬らが、この道を長崎へ、あるいは江戸へと往来しています。

明治7年2月、その街道は歴史の分岐点の舞台になりました。江藤新平、島義勇らを擁して起こった佐賀の乱です。初代司法卿として司法制度の基礎を築いた江藤新平は、下野ののち佐賀へ帰り、この戦いの中心に立ちます。政府軍と佐賀軍は鳥栖の朝日山、そして寒水川付近で激戦を重ね、政府軍は長崎街道を伝いながら西進しました。上峰周辺は、まさにその只中にありました。

やがて街道に鉄路が重なります。明治24年8月20日、九州鉄道が鳥栖―佐賀間を開通させ、中原・神埼・佐賀の3駅が設けられました。これが現在のJR長崎本線、その最初の区間です。当時の運行は1日4往復、所要時間はおよそ1時間。開通式の日には初めて汽車を見る人々が村々から沿線に詰めかけたと伝えられています。

古代官道から街道へ、街道から鉄路へ、そして国道へ。道が幾重にも重なりながら、この地の往来を支えてきました。これらの交通網は、住民の日常生活を支えるだけでなく、町内外から人を呼び込み、地域産品や魅力を発信する重要な役割を担っています。

このような立地条件を背景に、本町は福岡都市圏への通勤・通学が可能な生活圏に位置し、ベッドタウンとしての性格も併せ持つ生活拠点として発展してきました。定住促進住宅の整備や移住支援制度の充実により、特に若年層の移住・定住促進に取り組み、人口は1万人を達成。人口減少が全国的な課題となる中、地域の活力を維持しています。



上峰町、人口1万人達成!



ごあいさつ



九州各県の道守会員による交流会議「みちづくしinかみみね2026」が、本町の上峰町民センター及び道の駅かみみねを会場に開催されますことに、心より感謝と御礼を申し上げます。みちづくしが道の駅で開かれるのは初めてと伺い、開催地として大きな誇りに存じます。

本町には、都紀女加王墓がございます。応神天皇の曾孫と伝わり、五世紀にこの地を治めた筑志米多国造の始祖とされる王の墓で、佐賀県で唯一の宮内庁陵墓であります。1500年前、なぜこの地に王が眠るのか。それは、ここが古くから人と物の行き交う道の要にあったからにほかなりません。道があったから、まちがあった。この土地の始まりそのものが、道とともにありました。

日頃より、道の清掃美化から安全で快適な道づくりまで、たゆまぬ道守活動にご尽力いただいております皆様の活動は、その道を1500年の先へ継いでいくお仕事であると存じます。深く敬意を表します。

結びに、今回のみちづくしが実り多いものとなりますことを祈念いたしますとともに、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げ、歓迎のごあいさつに代えさせていただきます。

上峰町長　武廣 勇平

上峰町の魅力をめぐる

食 景 結

食 新たな特産「うなぎ」

ふるさと納税を契機として養鰻事業に取り組み、町内で育てたうなぎを新たな名産として全国へ届けています。地域資源を磨き上げ、新たな価値を生み出す取組は、まちの未来を切り拓く一歩です。いちごやブランド米「さがびより」も魅力の一つ。


町内うなぎの蒲焼

景 鎮西山と為朝伝説

四季折々の自然を感じる町のシンボル。山城があったといわれる鎮西山頂からは周辺地域を一望できます。そこへ続く道は、人々を自然との出会いへ導きます。平安時代末期の武将・鎮西八郎為朝ゆかりの地でもあり、その伝説はアニヌとしても親しまれています。


鎮西山からの展望

結 交流拠点「カゼマチ」

宮民一体型の再開発「つばきまちづくりプロジェクト」により生まれた街区が「カゼマチ」。その第一弾として令和7年4月、道の駅かみみねが開業しました。「道」が人と地域を結ぶ役割を体現する、上峰町の新たなシンボルです。


道の駅かみみね外観


道の駅の直売所風景

道の駅かみみね（交流集会）

開　業 … 2025（令和7年）4月
規　模 … 延床面積約2,700㎡（佐賀県最大級）
名　物 … 船盛お刺身定食、佐賀牛、ハンバーグ
売　場 … 生鮮食品・加工品・スイーツほか地場産品
アクセス … 東背振ICから約15分 /JR中原駅から約10分
町の概要 … 佐賀県三養基郡上峰町人口約1万人

みち語る上峰 ～弥生・街道・伝説を歩く～

実行委員長挨拶



道守佐賀会議
代表世話人
三原 ユキ江

第22回「みちづくしinかみみね」開催にあたって

第22回目となる「みちづくし」を、佐賀県上峰町にて開催する運びとなりました。本大会は、みちづくしの歴史において初めて「町・道の駅」を舞台に開催される、記念すべき大会です。弥生時代から現代へと脈々と続く歴史が息づくこの上峰の地で、道守の歩みに想いをはせ、私たちの未来を見つめ直す特別な機会にしたいと考えております。

振り返れば、私のボランティア活動の原点は、「玄関前の道を掃除し、お隣まで少しだけ綺麗にすることで、誰もが気持ちよく通れる道になる」という言葉をいただいたことにあります。私たち道守は、誰かに強制されるわけでもなく、自発的な想いで歩みを続けてまいりました。気づけば発足から、23年という月日が流れ、その歴史の重みと仲間の絆の深さに、改めて深い感銘を覚えます。

道は、地域の歴史を語る語り部

今回のテーマは「みち語る上峰 ～弥生・街道・伝説を歩く～」です。

道は単なる移動手段ではありません。そこには時代を超えて受け継がれてきた人々の暮らしや文化、地域の記憶が刻まれています。上峰町を貫く道筋には、吉野ヶ里遺跡に代表される弥生文化、古代官道（奈良時代）中世に語り継がれる源為朝伝説、そして近世の長崎街道の賑わいなど、多彩な歴史の足跡が息づいています。道を歩くことは、地域の歴史を学び、人と人をつなぎ、未来へ文化を受け継ぐ営みでもあります。

このテーマには、過去と現在が交差する上峰町で、道とともに道守活動の歴史を築いてきた皆さまとともに、これからの道守活動の未来を展望したいという想いが込められています。

道の駅から始まる新たな歴史

「みちづくしinかみみね２０２６」の大きな特徴は、交流集会を「道の駅かみみね」で開催することで、道の駅での開催ははじめての試みとなります。道の駅は、道路利用者の休憩施設であり、地域の情報発信や交流の拠点でもあります。まさに私たち道守の「道を守り、育て、人と地域をつなぐ」という理念と重なるこの上ない舞台ではないかと思っております。

上峰町のシンボル・鎮西山（標高２０２ｍ）の名は、平安末期の武将源為朝（鎮西八郎為朝）が山頂に山城を築いたとの伝説に由来し、豪勇無双の弓の名手として知られる為朝の伝説は今も語り継がれています。今回の大会における私たちの新たな挑戦も、いつの日か「みちづくし」の歴史の中で語り継がれる出来事となるかもしれません。

道守の歴史を未来へつなぐ大会に

「みちづくし」は、九州全域からボランティアの仲間が集い、日頃の活動の喜びや悩み、これまでの歩みを笑顔で語り合う、年に一度の大切な場です。交流会では、佐賀県立佐賀城本丸歴史館より七田忠昭館長の講演、古川英文様をコーディネーターとしてお迎えし、各県会議の活動報告をもとにパネルディスカッションを行います。これまで道とともに道守活動の歴史を築いてこられた皆さまから、どのような意見や提案が生まれるのか、今から期待が高まります。

弥生の息吹、街道文化の記憶、そして語り継がれる英雄伝説。さまざまな時代の物語が交差する上峰町で、皆さまと思いを共有し、楽しい時間を過ごせますよう、心よりお待ち申し上げております。ぜひ「みちづくしin かみみね」へ足をお運びください。

プログラム

2026年11月20日（金）　交流会／交流集会

［交流会］
- 会場／上峰町民センター
- 受付／12:00～
- 交流会／13:00～16:30

［交流集会］
- 会場／道の駅 かみみね
- 受付／16:30～
- 交流集会 ／17:00～19:00

2026年11月21日（土）　現地体験学習

［Aコース］
- 錦秋の佐賀 秋色に染まる、歴史ロマン紀行 ～九年庵の紅葉と吉野ケ里の風～
- 時間／8:00～12:05

［Bコース］
- 豊穣の里と酒蔵情緒を巡る街道旅 ～ありあけ海道 トレジャーロード～
- 時間／8:30～12:30

◆基調講演◆

歴史から上峰の魅力を探る

講演者
佐賀県立佐賀城本丸歴史館長
七田 忠昭 氏



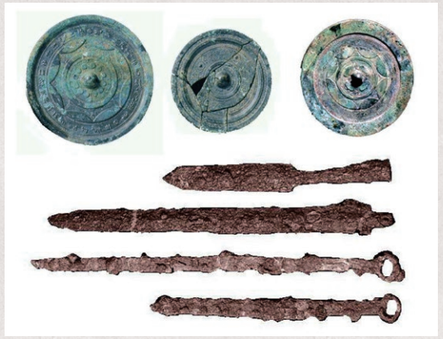
奈良時代に初めて全国的に敷設された駅路（官道）が、現在の高速道路の路線とさほど違わないことが知られています。しかも、弥生時代の有力集落や古墳時代の権力者がいたことを示す前方後円墳の分布を結ぶ線が、この駅路の路線とほぼ一致することも確認されています。古来、重要な場所を結ぶことが、道の主な目的だったのでしょう。

県内20市町の中で19番目の12・79㎢と面積が小さいにもかかわらず、上峰町には高速長崎自動車道や国道34号、6本の県道、さらにはJR九州長崎本線などの主要な交通路が多く交差します。

上峰町には、弥生時代の主要な集落を結ぶ道、古墳時代の国々を結ぶ道、奈良・平安時代の駅路や脇道、江戸時代の長崎街道など歴史上主要な道が通っており、河川や海を介した航路もこれに関わっていたでしょう。さまざまな人々が上峰を通らざるを得なかったと考えることができます。いつの時代でも道を通じて人やモノが行き交い、各地の情報がもたらされます。新しい情報を知り、活かしていくことで地域は発展し変貌を遂げてきました。

上峰の名の語源は、奈良時代に編さんされた『日本書紀』や『肥前国風土記』に出てくる「筑紫嶺県主」や「三根郡」由来であり、歴史的に由緒あるものです。上峰町には、吉野ヶ里遺跡と関係深い二塚山遺跡や応神天皇曽孫都紀女加王（初代筑紫米多国造）の陵墓など、弥生時代以降の日本史上著名な遺跡が数多く存在しています。気候・地形・土壌などの自然条件の良さと主要な交通路の存在を、進取の気性に富んだ上峰の人々が活かしたおかげだと思います。

道を介して上峰町一帯の歴史的な魅力を紹介したいと思いますので、参集された皆様が歴史や道を活かした地域づくりを考える際の参考にしていただければ幸いです。


二塚山遺跡出土の中国皇帝からの下賜品



七田 忠昭 氏

【略歴】
１９５２年生まれ。佐賀県立神埼高等学校、國學院大學文学部史学科（考古学専攻）卒業。佐賀県教育庁入庁し文化財保護事務と県内遺跡の発掘調査を担当。１９８６年から22年間は吉野ヶ里遺跡の発掘調査を現地で指揮し、89年以降は歴史公園整備にも携わる。その後、佐賀県立博物館 美術館長を経て2012年～佐賀県立佐賀城本丸歴史館長

【大学・各種委員会等】
２００９年～２０２０年佐賀大学・佐賀女子短期大学・放送大学などで非常勤講師、佐賀県吉野ヶ里遺跡弥生時代・古代調査指導委員会委員長、上峰町史編さん委員会編集部会長、上峰町文化財保護審議会長 等

【主な著作】
「弥生集落の展開」『史跡で読む日本の歴史１ 列島文化のはじまり』吉川弘文館、『邪馬台国時代のクニの都 吉野ヶ里遺跡』新泉社など著書・論文多数

交流会パネルディスカッション
コーディネータープロフィール



古川 英文（ふるかわ・ひでふみ）
佐賀県立佐賀城本丸歴史館
プロジェクトマネージャー

1964年生。佐賀西高等学校、早稲田大学卒。東洋美術出版・二玄社で15年間編集に従事。「出門堂」（福博印刷文化事業推進室）から福岡博著『佐賀の幕末維新 八賢伝』、金子信二著『佐賀読本』などを企画出版。2009年4月より2024年3月まで佐賀城本丸歴史館副館長。「佐賀偉人伝」（全15冊）、「佐賀城本丸クラシックス」の出版を担当。

《パネリスト紹介》

テーマ① 歴史的な名所や歴史が感じられる場所などでの活動

佐賀会議



都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団
碇 勝征氏

道守活動に参加して

都紀女加王墓は、佐賀県三養基郡上峰町坊所に所在する全長約50mの前方後円墳で、昭和18年に宮内庁が「都紀女加王の墓」として治定した佐賀県内唯一の皇族陵墓です。古墳時代中期（5世紀頃）の築造とされ、地域を代表する歴史遺産として親しまれています。「都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団」は、古墳を後世へ継承することを目的に平成27年に設立され、本年で11年目を迎えます。現在は約30名が毎月活動し、古墳公園周辺の除草や清掃、花植えなどの環境美化活動を実施しています。また、神村学園高等部上峰校舎等と連携した地域学習活動にも取り組んでいます。さらに、「道の駅かみみね」周辺の花かご23基へのサルビア230本の植栽・管理や、伊豆大島から寄贈された町木ツバキ22本の維持管理も行っており、年間活動回数は250回を超えるなど、地域に根差した道守活動を継続し、地域活性化にも貢献しています。



サルビアの植込み作業



神村学園生との美化活動を進める

かごしま会議



薩摩街道保存会 事務局長
中俣 知大氏

「参勤交代の道」を歩く・守る・伝える

私たち「薩摩街道保存会」は、25年ほど前に「身近に歴史街道がある」ことに興味を持ち、地元の歴史研究家である丸目直樹氏を会長に、鹿児島県建築士会メンバーで設立しました。

参勤交代の道であった「薩摩街道（出水筋）」に先人への想いをはせ、歴史を学びながら楽しく健康に歩くこと、そして「後世へ伝承すること」を目標に活動しています。

県内の薩摩街道（出水筋）（約113㎞）を9つの区間に分割して、1区間ずつ参加者を募り歩く「参勤交代の旅」は、平成15年に開始し、これまでに8巡目に入りました（60回超の開催）。

活動は県外に及び、熊本県内（約154㎞）12区間、福岡県内（約134㎞）10区間を踏破し、更には、「日本橋・関ヶ原・箱根越え」等の各所をピックアップして、参勤交代を体験しています。

後世に伝承するため、県内で「道標」を70箇所設置しました。また、小学生の歴史街道歩行計画のある山道で、草払い等の保全活動を年2回実施しています。

これからも薩摩街道を「歩く・守る・伝える」を継続して参りたいと思っています。



設置した「道標」



薩摩街道（西田橋～常磐橋）踏破

テーマ② 若い世代との共同作業や学校等との連携活動

ふくおか会議



西日本短期大学緑地環境学科
ランドスケープデザイン部 部長
室谷 怜氏

国体道路 花いっぱい運動に参加して

西日本短期大学緑地環境学科は、平成24年12月から年2回の花植を、はかた夢松原の会と実施してきました。

私たちは、花植えのデザインと花の数量積算、事前調査と花の撤去や土壌改良などの事前作業、花植え作業、花の生育状況調査や散水、花壇状況の観察を担当しています。

西日本短期大学は2年で卒業していくので、1年夏の作業は先輩に指導してもらい、1年冬・2年夏の活動はデザインや設計作業、現場での指揮を自分たちが中心になって活動します。そのような中、段階を踏んで段取りや作業を学び、同時に協働する皆さんとの会話やコミュニケーションを学んで行きます。いろいろなことが解るようになると、作業がどんどん楽しくなり、そこでの交流も楽しくなりました。単純に花を植えることだけでなく、活動する皆さんとのコミュニケーション・交流が重要で、花を媒介にして様々なつながりやまちづくりに貢献しているということを感じることができています。



花植え指導



花の配付

今後は、大学や高校、小中学校などの教育機関と連携しクラブ活動や企業もCSR活動として参加し、学びにつながるプログラムと仕組み作りを行うことが重要です。

そのためには花壇づくりや活動を指導してくれる、専門家を育てていくことも必要であると思います。

くまもと会議



NPO法人自然を愛する会JOC
福田 華乃氏

参加者から運営者へ
ー若い世代がつなぐ豊後街道ー

NPO法人自然を愛する会JOCでは、「自然と共に育ち、自然と共に生きる」を理念に、子どもたちの健全育成を目的としたさまざまな自然体験活動を行っています。その代表事業が「参勤交代・豊後街道九州横断徒歩の旅」です。

この活動では、江戸時代の参勤交代で利用された豊後街道を歩きながら、歴史や文化、豊かな自然に触れ、地域の方々との交流を通して「心・歴史・挑戦」を学びます。毎年、小学3年生から中学生までの子どもたち約120名と大学生スタッフ約50名が参加し、大分県から熊本城まで約125㎞を6泊7日かけて歩きます。

道中では、地域の方々から温かい応援や交流をいただきながら、一人ひとりが仲間と支え合い、最後まで歩き抜くことに挑戦します。この活動は、歴史ある豊後街道の魅力を次世代へ伝えるだけでなく、自然体験や集団生活を通して、子どもたちの主体性や協調性、挑戦する心を育む機会となっています。また、地域と参加者をつなぐ交流の場としても大きな役割を果たしています。



最終日に、熊本城二の丸広場にて、参加者と引率リーダー全員での集合写真



第47回 豊後街道徒歩の旅 団長補佐
向かって左から二子石祐良・福田華乃

テーマ③ 今後の課題

長崎会議



道守長崎・佐世保・佐々地区世話人
天島 道夫 氏

若い力を呼び込む道守活動

道守長崎・佐世保・佐々地区では、クローバーロード清掃隊の定例歩道清掃、ながさきサンセットロード沿道の環境美化、愛宕市でのイベントゴミ回収活動、旧海軍橋の橋みがきなど、地域の道路環境を守るボランティアを続けています。こうした活動を継続する上で最も重要な課題は、コアメンバーの拡充と世代交代です。長年活動を支えてきたメンバーの高齢化が進む中、若手リーダーの育成や役割分担の再構築が求められています。

また、若い世代の参加促進も大きな課題です。企業・団体の若手には声掛けを行い参加が増えつつありますが、学生の参加はまだ少なく、歴史を学びながら歩く、地域文化を体験するなど、学びにつながる魅力的なプログラムづくりが必要です。地域の歴史を未来へつなぐため、若い世代が主体的に参加できる環境づくりを進めながら、道守活動を継続していきます。



愛宕市でのイベントゴミ回収活動後、ゴミ収集場所での集合写真

大分会議



大分県　豊後大野市
道の駅みえ　駅長
後藤 節子 氏

道の駅の主な3つの機能「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」

4月22日の「道の駅の日」、道守の皆さんや、ジオサイトガイドさん等、ボランティア参加約130名の方々に、道の駅、市道、国道326号のゴミ拾いや、草むしり等をしていただきました。今年で5回目です。

今回奨励賞をいただく菅尾小学校の皆さんは毎回参加してもらっています。「私達の道の駅に来てくれるお客様の為に綺麗にしたい」優しく尊い想いを持つ子供達です。幼稚園から大人になっても関係が続く子もいます。

地域の方々に支えられているからこそ出来る活動、2回の熊本地震、東日本大震災、能登半島地震等様々な災害時に募金活動、支援販売等を行い、地域の皆様から頂いた優しさを全国へ。ご恩返しのつもりでこれからもがんばります。



道の駅みえ 清掃活動に集まった人たち

みやざき会議



i-さいとあいさいと
代表理事
井上 優 氏

道から始まるおもてなし

西都原は、古代から脈々と続く歴史と文化が息づく全国的にも貴重な古墳群を有する地域です。考古博物館ボランティアは考古博物館及び古墳群のガイドが主な活動ですが、訪れる方々を気持ちよく迎える「おもてなしの心」を大切にし、西都原考古博物館の玄関口となる道の美化活動に取り組んでいます。

西都原の歴史的景観を守り、訪れる方々に心地よい環境を提供するためには、今後も継続的な活動体制を確保していくことが重要な課題です。現在、考古博物館玄関前の美化活動は、ボランティア一人ひとりの「西都原を大切にしたい」という思いと協力によって支えられています。しかし、植栽や維持管理に必要な資材費、植物の購入費など、活動を継続していくための安定した費用確保も必要となっています。

また、活動を担うボランティアの高齢化が進む中、これまで培ってきた景観づくりへの思いや知識を次世代へ継承していくことも大きな課題です。「景観考古学」という視点を生かした取組を未来へつなぐためには、若い世代や西都原に関心や思いを持つ市民が参加しやすい仕組みづくりが求められます。

今後は、学校や地域団体との連携、体験型の活動の充実などを通じて、幅広い世代が西都原の魅力を守る活動に関われる環境を整えていく必要があります。多くの人が関わり支え合うことで、西都原古墳群の歴史的景観と、現在活動するガイドの「おもてなしの心」を未来へ継承していきたいと考えています。



宮崎県立西都原考古博物館周辺の除草作業

11月21日（土）

みちづくし in かみみね 2026 現地体験学習

みちづくしinかみみね 2026の各コースについてご紹介しますので、ぜひ当日のご参考にしてください。

Aコース 錦秋の佐賀 秋色に染まる、歴史ロマン紀行 ～九年庵の紅葉と吉野ヶ里の風～



●九年庵

九年庵（くねんあん）は、佐賀県神埼市にある美しい日本庭園で、明治時代に実業家・伊丹弥太郎によって築かれました。

約6,800平方メートルの敷地には、数寄屋風の建物と池泉回遊式庭園が広がり、特に紅葉の名所として知られています。庭園の整備には9年の歳月を要したことから「九年庵」と名付けられました。

普段は非公開ですが、毎年秋の紅葉の時期に期間限定で一般公開されています。

周囲には仁比山神社や仁比山公園もあり、自然と歴史が調和した佐賀を代表する景勝地の一つです。



●吉野ケ里歴史公園

吉野ヶ里歴史公園は、佐賀県神埼市と吉野ヶ里町にまたがる、日本最大規模の弥生時代の遺跡である「吉野ヶ里遺跡」を保存・活用した国営公園です。

遺跡には、紀元前から紀元後にかけての環壕集落跡が広がり、全長約2,500mにも及ぶ壕（堀）や、竪穴住居、高床倉庫、物見やぐらなど98棟の建物が復元されています。古代の人々の暮らしや集落の様子を体感しながら散策できるのが魅力で、邪馬台国との関係も議論されるなど、歴史ロマンを感じることができる貴重な史跡です。



集合
8:50 吉野ヶ里温泉ホテル発
↓
九年庵
↓
吉野ヶ里歴史公園
↓
12:50 吉野ヶ里温泉ホテル着
解散

※混雑緩和のため、2台に分乗し、見学順序を入れ替えて運行します。

Bコース 豊穣の里と酒蔵情緒を巡る街道旅 ありあけ海道～トレジャーロード～

有明海の豊かな恵みを育む白石町と、酒造りの歴史が息づく鹿島市肥前浜宿を巡るコースです。最初に訪れる「道の駅しろいし」では、白石町自慢の農水産物や特産品に触れて地域の魅力を体感し、その後、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている肥前浜宿「酒蔵通り」へ。白壁の建物が美しく、写真撮影のスポットとしても知られるこの場所では、町並みと共にお酒の無料試飲や購入、酒蔵見学など地域に基づく文化に触れることができます。佐賀平野と有明海が育んだ食と文化を満喫するコースとなっています。



●道の駅しろいし

有明海沿岸道路福富ICを降りてすぐに位置する、白石町の魅力が詰まった道の駅です。白石町特産のれんこん、有明海の海産物や加工品、スイーツなどが豊富に揃い、白石町の「食」の魅力を存分に味わうことができます。



●肥前浜宿「酒蔵通り」

酒蔵の白壁が美しく続く肥前浜宿「酒蔵通り」は、かつて酒や醤油などの醸造業を中心に発展した歴史ある地区です。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、お酒を味わいながら、町並みや酒蔵見学を楽しむことができます。



集合
7:30 吉野ヶ里温泉ホテル発
↓
8:30 佐賀駅発
↓
道の駅「しろいし」
↓
肥前浜宿「酒蔵通り」
↓
12:30 佐賀駅着
↓
13:20 吉野ヶ里温泉ホテル着
解散

令和8年度 道守功労者等表彰

令和8年度は九州各県から、合計5組の団体と3名の個人の皆様が功労賞を受賞しました。

功労賞

ふくおか会議

◆おおあざ清創の会

「おおあざ清創の会」の普段のボランティア活動は、団体の高齢化もあり参加者が減少してきておりますが、最近は猛暑の中、参加者全員で協力しながら道路を清掃しております。活動内容としましては、側溝が詰まるほどの落葉があるため月1回は清掃を行い、斜面から道路に草木がはみでてきているものをカットしたりするなどして、地域住民に影響が出ないように、道を整えています。このような表彰を受けて今後の活動の励みになります。ありがとうございました。



◆原口 与三吉氏

近所の道路美化のボランティアをはじめてから約30年たちます。平成28年には、「道守くるめネットワーク」を立ち上げ、活動の輪が市の全体に広がりました。今では、道守活動に子ども連れで参加する人や高校生など若い人たちも参加してくれます。このように活動が大きく広がり、続いているのも、家族や周りの人の協力があってのことと感謝しています。これからも、道守に関わる人たちがもっと増え、久留米市がきれいで住みよいまちになることを願っています。



佐賀会議

◆都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団

「都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団」は、佐賀県三養基郡上峰町坊所に所在する全長約50mの前方後円墳「都紀女加王墓」を後世へ継承することを目的に平成27年に設立されました。現在は約30名が毎月活動し、古墳公園周辺の除草や清掃、花植えなどの環境美化活動を実施しています。また、神村学園高等部上峰校舎等と連携した地域学習活動にも取り組んでいます。さらに、「道の駅かみみね」周辺の花かご23基へのサルビア230本の植栽・管理や、伊豆大島から寄贈された町木ツバキ22本の維持管理も行っており、年間活動回数は250回を超えるなど、地域に根差した道守活動を継続し、地域活性化にも貢献しています。



長崎会議

◆松田 浩 代表世話人

道守長崎会議の代表世話人として、地域の皆様とともに、道の安全・安心を支え、次の世代へつなぐ活動に取り組んでいます。特に力を入れているのが、子どもたちを対象とした「橋育（きょういく）」です。上諫早小学校の児童と、大学生や地域の方々と一緒に、橋の歴史・文化、構造、防災、維持管理について学び、『わたしたちの橋物語―かがやけ！等星』上・下巻にまとめ、冊子だけでなく、Web版も制作しました。

これからも「道守」と「橋育」を通して、人を育て、人をつなぎ、地域の大切なインフラを次の世代へ引き継いでいきたいと思います。



くまもと会議

◆八嘉校区まちづくり委員会

八嘉まちづくり委員会は、約25年にわたり、地域の景観づくりと美しい道路環境づくりに取り組んでまいりました。「花いっぱい運動」を続けることができたのは、約50名の委員の支えはもちろん、地域の皆様、関係機関、そして地元小学校のPTAや子どもたちの温かいご協力があったからこそです。総合学習で一緒に花を植え、花を育てる喜びや地域を大切にする心を次の世代へつないでいけることは、私たちにとって何よりの喜びです。

受賞を励みに、これからも地域の皆様に親しまれる花壇づくりを続け、花を通じて人と人とのつながりを育み、美しく安全で心和む道路環境づくりに貢献してまいります。

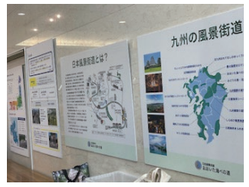


『わたしたちの橋物語』
https://www.isahaya-snet.ed.jp/hashimonogatari/

大分会議

◆加藤 千明氏

第5回「別府温泉とまちまち博」を9月10―13日の4日間「トキハ別府店」で開催。この催しは、別府温泉に訪れるお客様に風景街道海べの道8市町にも足を伸ばしてもらいましょうという趣旨で、観光物産展を毎回開催。今回は何と「道の駅」+「まちまち博」+「道守」=「3つの輪」がついに完成。「3つの輪」パネル展も同時開催し、2万人に皆さまの目に。パンフは別府市旅館ホテル組合との連携で、毎回1万枚をフロントで今回も配布しました。



みやざき会議

◆延岡アースデイ実行委員会

たくさんの企業、団体、行政をはじめ活動に参加しくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。道は、私たちの毎日の暮らしを支える場所であると同時に、人と人、地域と地域をつなぐ大切な場所です。その身近な道や地域の環境を自分たちの手で守ることが大切です。延岡アースデイが、これから10年20年と次の世代へ受け継がれていく活動となるよう、私たち実行委員会はその「中継ぎ」となれるよう活動して参ります。



感謝状

かごしま会議

◆薩摩街道保存会

身近に「歴史街道」があることに興味を持ち、平成15年に、歴史研究家の丸目直樹氏を中心に設立し、「先人に思いをはせ歴史を学びながら、公募した参加者と一緒に、楽しみながら歩いた」ことが、これまで続いた秘訣だと思っています。

今回、受賞の報にふれ、「江戸時代に薩摩藩の参勤交代の道であった薩摩街道（出水筋）を後世へ伝承する」という想いを更に強くした次第です。引き続き、楽しみながら歩きたいと思います。有難う御座いました。





◆上峰町長 武廣 勇平氏

第22回みちづくしin かみみねの開催にご尽力いただきました。

奨励賞

◆西日本短期大学 緑地環境学科

私たちは、2012年からはかた夢松原の会と一緒に国体道路において、年2回の花植え活動を実施している。花を植える前には花の撤去や土壌改良、植栽帯のデザインや数量把握などを行い、当日は花植え指導も担当している。実施後は参加された方たちと昼食を取りながら話す機会があり、社会人のマナーとして名刺交換をさせていただいている。短大なので、2年間の関わりだが、企業や行政の方たちとの会話の中で、自分たちが社会に出ての心構えなど参考になることが多く、いい機会をいただいていると感じている。これからも後輩へ引き続き、活動を継続していきたいと考えている。



◆柳川高校インターアクトクラブ

1967年の創立以来、柳川高等学校インターアクトクラブは、地域への感謝と奉仕の心を大切に、さまざまな活動に取り組んできました。その中でも道守会清掃活動は、長年にわたり部員が継続して取り組んできた大切な活動の一つです。学校周辺の道路の清掃や除草を通して、地域の環境美化に努めるとともに、地域社会の一員としての自覚を育んでいます。このたびの奨励賞を励みとし、創立60周年を迎えるクラブとして、これからも地域に根ざした奉仕活動を大切にし、次の世代へその心をつないでいきたいと思います。



◆学校法人神村学園高等部 上峰校舎

「都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団」の皆様と一緒に取り組んできた花植えや水やり活動は、地域を美しくするだけでなく、私たち自身の心を豊かに満たしてくれる大切な時間となりました。作業の中で教えていただいた知識や地域への思いなど、たくさんの学びがあったことに深く感謝しております。

今回の受賞を大きな力として、これからも奉仕団の皆様と共に地域の歴史ある環境を守り育てるとともに、道の駅が居心地の良い場所となるよう活動に励んでまいりたいと思います。本当にありがとうございました。



◆豊後大野市小中一貫教育校 三重学園 菅尾小学校

道の駅みえから歩いて1㎞程にある小学校です。

昨年から豊後大野市三重地区の小学校5校と中学校1校でスタート、6つの校舎は存続し、施設分離型の小中一貫教育校となりました。

道の駅とは、20年以上前からイベントや、花植え、近年では4月22日の道の駅の日に、道守さんやボランティアの皆さんと一緒に、道の駅の清掃や花の水やり等を、低学年が行っています。清掃活動の後には国交省の皆さんと一緒にパトロールカー等の体験を楽しんでいます。



◆まんぷくふくくる委員会

「サルクリーン」は、「自分たちの住む町は自分たちできれいにしよう」という思いから始めた、歩きながらごみを拾う小さな活動です。

子どもたちの健やかな成長や地域への愛着、人とのつながりを育む機会にもなっています。

これからも子どもたちと一緒に、きれいなまちづくりを続けて行きたいと思います。

（同代表 金丸美保子）



塚原健一 × 桑野和泉

道守通信50号記念対談（下）



司会
玉川 孝道



道守九州会議
副代表世話人
桑野 和泉氏



道守九州会議
代表世話人
塚原 健一氏

対談出席者

ことを、益城の井川寿範さんや八代の岡田敏代さんは被災者に伝えていました。チューリップの球根2千個を地域の人たちと一緒になって休耕田に植え、花が咲いたら一緒に喜んだことを体験し、そして、たくさんの人たちが訪れて観光地のようになった経験と素晴らしい感動を被災地の方に体験して貰おうと、球根を持っていかれ、被災後は花壇を作って心を潤すことが必要だと考えられたようです。

桑野　自分たちが経験したことを次に被災した方に、というのが道守ならではと思います。道守さんは自分たちの経験から、暮らしの潤いを考えて活動を始める。大分県の豪雨の際にも、竹田にたくさんの方が応援してくださいました。みんな、顔が見えるからこその支援はすごいなと思います。

塚原　行政とか学者はインフラ復旧するとか人の命を助けるとかしかありません。そこに、道守の人の縛られない活動があれば、多分行政もサポートできるはずです。

桑野　道守さんの支援をいただき、今度はその方たちが他のエリアにお返しできる。九州は災害が多い地域なので、ある意味鍛えられました。

塚原　最近は熊本でばかりです。2012年は、九州北部豪雨で阿蘇と熊本。その4年後に熊本地震があって、翌年は福岡で、次は球磨川水害。この頃、東九州に大きいのが来ていない。九州の西側は、昭和28年の大水害の後、河川改修を集中的にやって、それが昭和40年代にほとんどできました。その後は、昭和の終わりから平成にかけて、大淀川とか五ヶ瀬川とか、東九州の方が被害にあって、平成時代に集中的に改修したら、今度は白川とか筑後川とかに災害が発生し、一生懸命整備してきました。今後は東九州が心配です。

――次に、風景街道や道の駅との連携について。鹿児島の田島直美さんや佐賀の三原ユキ江さん、八代の牧圭子さんにしても、道守活動のリーダーが風景街道の発起人、中心的役割を果たして風景街道を作ってきているのは、すごいなと思います。

桑野　この前、日経新聞で風景街道が特集されていました。私ども大分県は面積としては一番、風景街道のある場所で、関係者がそのことをすごく誇りに思ってらっしゃるんです。新聞記事の反響から、大分県民はなぜもっとこの風景を生かさないのかとか、その風景がどんなに財産であるかという声をいただきました。

美しい風景は地域特有のものです。地域のよりどころが風景以外になくなってきている今、関わりたいと思っていらっしゃる人たちが増えているし、自分たちの誇りであるところに訪ねてほしいのでは。

だから道守の皆さんも、来ていただく人たちをお招きする場所にしたいという意識で、風景街道を立ち上げ、自分たちのエリアを見てもらいたい、一緒になってそこを持続して欲しいから仲間作りをしたいという発想もあるんじゃないかと思いました。

――道の駅は道守活動に当初は関心がうすかったけど、最近変わってきたように思います。道の駅の駅長である日高茂信さんや下条卓也さん達など、道守や風景街道に関心を持って、道の駅の役割を考える人たちが現れてきましたね。

桑野　昔と今は、営業も変わってきているように思えます。今は競争ですよね。道守さんと何かやってるということに道の駅である意味合いがあって、社会性のあるところと付き合っていくことを、道の駅の人たちは考えています。社会とのつながりを持つ中、道守はいいパートナーじゃないかなと思います。

塚原　そうなんですよ。例えば、何か災害や風評被害とかで道の駅や観光地に人が来なくなっても、道守とかのチャンネルでみんなが支えようという動きがでてくる。実際、阿蘇の道の駅も被災後ずいぶん知り合いやみんなにPRして、行けないから通販でも、というときに、道守のネットワークで助け合おう、とかね。

桑野　私達道守が、道の駅と外を繋ぐのに大きな役割を果たしていると言っていただけることはありがたいです。大分は3つの輪で活動しています。風景街道も含めてお互い協力し合わないとですね。

塚原　道守さんは、実はその地域に対してすごいパワーを持ってる人たちが多くて、道守だけやってるわけではなくて、地域で教育活動とか子供会とかもやってる。それをネットワーク化していけば道の駅ももっと良くなると思います。

桑野　私は、道守が最初から女性の活躍できる場を作ったのが大きいと思いますよ。最初、全部各県会議のトップを女性にしたことが、先見の明があったのでは。

塚原　地域に良い影響力を持ってる人たちって女性なんですよね。

桑野　立ち上げの時代から女性たちが地域のことについて、どんな場面でも意見を言える場を作ってくれたのは大きいと思います。その後も、現場の声をもつ女性達がいっぱい登場してきました。

――最後に、この道守活動を引き継いでいくことについて。（みちづくしで）道守活動をやっている小学生の発表を聞いて、次世代へ道守活動を引き継ごうとしてるところはいいなと思っています。

塚原　そうですね。今の若い子は、世の中のためとか人のためにやろうという気持ちは明らかに強い。そういう場を提供してあげれば、必ず地域に溶け込んでくるので、その一つのきっかけとして道守を提供していく。もう一つは、若者は何かリターンがあれば積極的にかかわると思います。何かポイントになるようなことがあったり、社会貢献活動とかで正式に評価されるようになったら、学生たちともWin-Winの関係となるでしょう。

桑野　道守は幼稚園児含めて小さい頃からずっと続いていると思うんですね。高校もボランティアで入ってくるし、大学生もみちづくしの時に参加いただいています。一緒の場面にいるだけでも私達は頼もしいです。若い人が隣にいてくれると、道守の皆さんにとってもすごく励みになると思います。今では企業とか行政との関係性が深まっているので、若い方たちが関わってくれれば、私達道守が従来とは違う表現やアピール、伝え方で道守を知らない方たちと新たな出会いがあると思います。それは私達世代では難しいので、若い方たちに期待したいと思います。



塚原　学生や子供たちは参加できますが、問題はそのあとの世代です。就職して仕事や子育てとなると、やっぱり50歳ぐらいまでは厳しいですよね。自由な時間が取れるようになるのは50歳過ぎてからですね。

桑野　そうですよね。そこから50歳までの世代が難しいのであれば、その間を繋ぐように、道守がモデル的に試行をすればいいと思います。

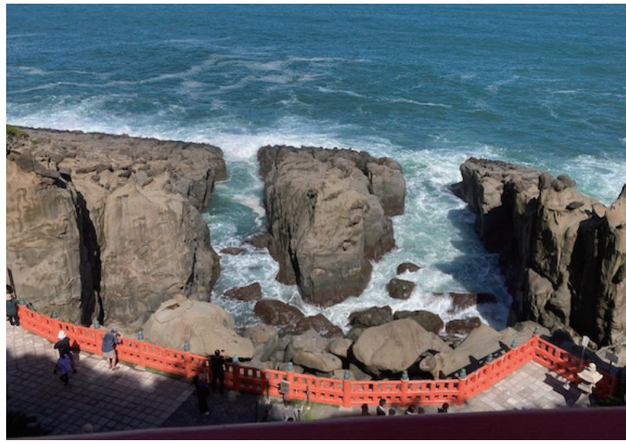
私は、国道事務所の若い人が入ってきて、一緒に活動してくれるのが心強いです。各事務所の職員さんが一緒に活動してくれるじゃないですか。この世代はなかなか道守にはいないわけですが、一番いるのは事務所です。

それには物語が必要だと思うのです。今後次世代へ引き継ぐとき、物語がずっと続いて、私達が関わらなければという気持ちになるような、共感の場がいるのかもしれません。

塚原　ネームバリューも必要でしょう。例えばやまなみハイウェイだったら遠いけど行こうかとか、親の世代にも価値があるからなんて。ネームバリューをどう考えていくか、どうやってブランディングを道守でやっていくかという事でしょうか。

桑野　次世代へ引き継ぐ中でそういうものが一つ生まれて、ある意味大きなプロジェクトとして残っていけると楽しいと思います。九州の風景街道の始まりであるやまなみも60年経過し、そこに関わる人たちも世代交代しています。この風景は今も変わらず日本を代表するものであり、そこを道に関わる皆さんの総力戦で磨き、世界に発信していくことが、今こそできる時だと思います。（完）


道の駅フェニックスから眺める雄大な青い海


鵜戸神宮から見渡す荘厳な海

わたしの好きな道

宮崎の青い空・青い海に続く道
ひむか神話街道へご案内
～宮崎県宮崎市 県道377号～

宮崎市中心街から南へ20㎞（国道220号）、30分程車を走らせ、堀切峠（ほりきりとうげ）の標識を目印に左折、山道を抜けると、ひむか神話街道（県道377号）へと入ります。

堀切峠（日南海岸国定公園）前のワインディングロードを曲がった瞬間、眼下に現れる壮大な青い海。どこまでも続く、どこまでも青い、雄大な太平洋です。まるで時空間に紛れ込んだような紺碧の海は、何度訪れても歓声が上がります。空、海、そして吹き抜けていく潮風。自然が織りなす「青の空間」へ吸い込まれ、駆け抜ける、日南海岸ドライブコースです。

海は四季を通して、様々な表情を見せてくれます。真夏の太陽を反射するコバルトブルーの海、スモーキーな空色に染まる、淡く水色な海、ムーディーな空から落ちてくる雨粒を弾く灰色の海。空と海がキャンバスのように表情を変え、自然の雄大さ、自己の小ささを痛感させてくれます。

潮風にゆれるフェニックス、リズミカルな波の音、南国リゾート感溢れる街道を走り抜け（堀切峠～1㎞）、「道の駅フェニックス」に到着です。人気のソフトクリームを片手に、一望する瑠璃色の海、打ち寄せる白い波は、鬼の洗濯岩（国の天然記念物の奇岩群・約2400万年前に海底にできた地層が隆起、波に浸食されることで硬い層だけ残り、現在の洗濯板状の地形を形成）にぶつかり、心地よい波音が耳に届きます。

「水音が美しく響くのは、流れる道に岩があるから」

果てしなく広がる雄大な自然の前では、日々の悩み、嫌な出来事も、小さな、小さな事に過ぎないと、岩に打ちよせ響く波音のように、気持ちが変化していきます。

最後に、堀切峠という地名は、今から約114年前（大正初期）、山を切開き（堀切り）道路を通した開削工事に由来しています。道なき道に挑まれた先人の道づくりの功績に感謝し、つながる道の大切さを改めて感じています。

「ようこそ、ひむか神話街道へ。とびきりの青い空、青い海をご用意してお待ちしています。」

■プロフィール

幸 美樹子（ゆき・みきこ）

所属：道守みやざき会議 事務局





ジェラートのような爽やかさ！ トロピカル風味溢れるマンゴーソフト。



えび、明日葉など宮崎ならではの超レアフレーバーも揃っています。

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 **佐賀 道守佐賀会議**

また来たいと思える道の駅に
道の駅鹿島（佐賀県鹿島市）

道の駅鹿島では、「道を守ることは地域を守ること」を基本理念として、地域の皆様とともに道守活動に取り組んでいます。

当道の駅では、国道207号沿線や施設周辺の清掃・除草作業を定期的に実施し、訪れる皆様に気持ちよくご利用いただける環境づくりに努めています。

また、当道の駅の最大の魅力である有明海や七浦干潟の豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐため、地域と連携した干潟の環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

こうした活動が評価され、令和7年（2025年）9月には「自然共生サイト」に、当道の駅周辺の「ななうら干潟とめだかの里」が選ばれました。これは環境・国土交通・農林水産の3大臣が、生物多様性の保全に深く寄与する活動を公式に認める制度です。

さらに、道守活動は清掃・環境保全にとどまりません。地域の皆様との交流を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育む活動でもあります。地域住民・生産者・学校・各種団体の皆様と連携しながら活動を進めることで、地域全体の活性化や観光振興にもつながっています。

鹿島市には、有明海の干潟や豊かな農水産物、酒蔵文化など、誇るべき地域資源がたくさんあります。これらの貴重な財産を守り、磨き上げ、多くの方々にその魅力を伝えてまいります。

今後も道守活動を通じて、美しい景観と豊かな自然環境を守りながら、地域の皆様とともに魅力あるまちづくりを進め、「また来たい」と思っていただける道の駅を目指してまいります。

（道の駅鹿島駅長　株式会社七浦
代表取締役　下村浩信）


施設周辺での清掃活動


干潟の環境保全活動


道の駅鹿島全景


鹿島ガタリンピック


地域の皆様との交流会（ふるさと七浦夏祭り）





長崎街道沿い商店街でのだんらん茶屋

佐賀

特定非営利活動法人活気会・食育部会（佐賀市）

シュガーロード・佐賀の菓子とお茶の出会いでおもてなし

私達の会は、「茶・菓子・器」にまつわる佐賀の「宝」を活かし、「和の伝統文化」を広める活動を展開しています。

佐賀は、煎茶の祖といわれる「高遊外売茶翁」を輩出しており、「嬉野茶」は、全国でも上位の生産を誇っています。また、佐賀県を通る長崎街道は、シュガーロードともいわれ、沿道では「菓子」の文化が花開き、今に伝えられています。さらに、国内外で有名な有田、伊万里は、茶・菓子に欠かせない「器」を育んできました。

食育部会は平成17年に設立し、こうした「宝」の歴史的な背景を重視し、生産者の方々とともに「煎茶」というキーワードで「おもてなしのこころ」を伝える事業に取り組んでいます。保育園等での「煎茶教室」では、お茶の淹れ方いただき方のワークショップ、佐賀城下ひなまつりやバルーン大会時は、「だんらん茶屋」と称し、呈茶を行っています。

「お茶は人と人をつなぐ懸け橋」、こうした活動が人々の明日への活力をもたらし、ひいては、地域の活性化に貢献できることを確信しつつ、会員一丸となって、さらに活動を展開していきます。

（代表　澤野香代子）


食育賞受賞の会員を囲んで

福岡

（株）クリエイション（北九州市）

地域を美しく 安全安心に。

株式会社クリエイションは、北九州市内で内装に携わる事業を営んでいます。

会社周辺には、学校もあり以前から子供達への声掛け、不審者がいないかの確認もしており、毎週火曜日には、近隣の清掃をしております。

そのようなおり、「企業版北九州道路サポーター」の制度が開始されるというニュースを見て、感銘を受け継続的に地域貢献を行わなければ、という思いから、社内会議にて、道路サポーターになろうと全員で決意した次第です。清掃中、タバコの吸殻や空缶等様々なゴミが道端に落ちています。また通学中の子供達が「おはようございます。」と元気いっぱい声をかけてくれる時はとても新鮮な気持ちになり、近隣の方にも時折、お手伝いをして頂いています。

今後は、さらに清掃範囲を広げ、より町を美しく綺麗に維持し美しい町にして行きます。

また、子供達に私達が行っている清掃等を通して、大人としての姿勢を見せることにより、次世代に受け継いでもらえればと思います。

（代表取締役　福田貴光）


作業後


作業前



社員で写真撮影

長崎

NPO法人道守長崎（長崎市）

長崎くんち前の美化活動

毎年10月7日から3日間にわたり開催される「長崎くんち」は、1634年から続く長崎を代表する伝統行事であり、毎年延べ70万人が訪れる大規模な祭りです。

道守長崎会議では、平成23年から「長崎くんち」の開催地である諏訪神社の参道に接続する国道34号馬町交差点において花植え活動を実施しており、季節の花々による花壇整備を通じて、祭りを彩る景観づくりに取り組んでいます。

令和7年度は、長崎県道路メンテナンス会議と連携し、花植え活動に加えて、国登録有形文化財である鎮西橋の橋みがきを実施しました。

清掃前の橋は、苔や排気ガスなどの影響により黒ずみが目立ち、周辺の景観を損ねていましたが、橋みがきにより長年蓄積した汚れを除去し、橋の美観向上を図ることができました。また、色鮮やかな花々とともに、長崎くんちを訪れる多くの参加者を迎える環境を整えることができました。

今後も道路空間の美化と魅力向上に努め、地域に愛される環境づくりのための活動を継続してまいります。

（NPO法人道守長崎　酒井修子）


花植え、橋みがき後、鎮西橋にて撮影した集合写真


橋みがき活動


花壇への花植えの様子

熊本

御所浦せんばいなか（天草市）

恐竜の島・御所浦に生まれた法面アート 汚れた法面が、巨大なキャンバスに。

私たちは、「地域資源を生かし、島を訪れる人が楽しめる場所を増やせないか」と考え、活動を始めました。舞台は、熊本県天草市の離島・御所浦町です。17の島々からなる御所浦町は、多彩な化石が見つかる、全国でも珍しい「恐竜の島」です。

私たち「御所浦せんばいなか」は、御所浦恐竜の島博物館の開館をきっかけに、島の未来を考える有志が令和4年に設立した団体です。今回は、博物館から化石採集体験場へ向かう道沿いの、苔や汚れで黒ずんだコンクリート法面に着目しました。木やカズラを伐採し、高圧洗浄機で汚れを落とした後、メンバーで力を合わせて巨大な恐竜の絵を描きました。

その結果、景観や周辺道路がきれいになっただけでなく、新たな観光スポットも生まれました。完成した恐竜アートはフォトスポットとして注目を集め、メディアにも取り上げられています。これからも、島の資源を生かした地域づくりに取り組むとともに、地域の大切な道をきれいで安全に守っていきます。道を守ることが、島の魅力を未来へ引き継ぐことにつながると考えています。

（会長　山下幹生）



恐竜アートを作成した皆さんと

大分

大分道守会議（別府市）

さあ「トス」をあげよう!!

前回の九州道守会議で表彰された別府上人町の花壇の花植えの続編をどーぞ。この花壇、最初に町内にお願いしたのは道守と風景街道。もう8年も前のこと。10号線沿いにスバラシイ花壇がいつも青々と。この花壇、だけど水がない。でもみんなの姿に心を動かされた花壇の前の老人ホームさんが「ウチの水使いよ。道具も置きよ。」と快く。

さて、それを見て隣の町内会長がなんと「俺たちも、あげんことしてえわぁ」と、手を挙げた。すると、それを聞いたまた隣の町内「何え、それはええなあ。俺たちも」と大張り切り、2つの町内が参戦と一気に3町内が花を植えに。

この事例は私たちの道守活動に、いろいろな示唆を与えてくれている。

①みんなで花を植えていると、その行為は色々な人の心に届き伝播していく。

②みんなで花を植えると、そこを通るとき植えた時のことを鮮やかに、その人は思い出す。

③国交省は「道（コート）」を用意し、私たちは「トス」をあげ、住民が「スパイク」を打つ。

つまり、私たち道守も風景街道も、住民が力を合わせ笑顔で暮らせるコミニュティをつくるために「トス」をあげつづけることが、その究極の使命なのだと。

（世話人　加藤千明）


国道10号線沿いの花壇での作業

宮崎

まんぷくふくくる委員会（国富町）

未来へつづく、サルクリーン活動

私たち「まんぷくふくくる委員会」は、子どもたちの健全育成を目的に、子ども食堂や体験活動、地域交流などを通して、人と人とのつながりを育む活動を行っています。

そのつとして、「自分たちの住む町は自分たちできれいにしよう」という想いから、誰もが気軽に参加できる「サルクリーン」を行っています。「サルクリーン」は、宮崎弁で「歩く」を意味する「さるく」から名付けた活動で、歩きながら道に落ちているごみを拾う、そんな小さな地域貢献です。

子どもたちとの活動は年に1~2回ですが、「どうしてごみをポイ捨てするんだろうね?」という素朴な問いに、大人も改めて考えさせられます。また、メンバーには週に2~3日、朝のごみ拾いを続けている人もおり、地域を大切にする思いを行動で示しています。

サルクリーンを通して、町をきれいにするだけでなく、地域への愛着や人とのつながりを育み、子どもたちの健やかな成長につながる活動を続けていきます。

（代表　金丸美保子）


自分達の住む町をウォーキングしながらゴミ拾い。道守活動しながら、健康づくり、地域愛も育む、たくさんのプラスが詰まった活動です。


道守活動の後は、みんなで楽しくお食事タイム。地域スーパーの協賛で、カレースープ&おにぎりを作りました。


会員さんの中には、毎日独自で道の清掃活動を行っている方もいます。

鹿児島

まちの駅宇宿 宇宿商店街振興組合（鹿児島市）

「鹿児島市で住みたい街No.1」を目指して

鹿児島市の「宇宿（うすき）」の街は、鹿児島市の中部に位置し、脇田川沿いに約1万5千人が居住しています。街の中心には、JRの駅・市電の電停・バス停があり、鹿児島大学病院へのアクセスポイントとなっています。

宇宿商店街振興組合は、平成4年に設立し「宇宿が魅力ある街になり、鹿児島市で住みたい街 No.1（ナンバーワン）になること」をスローガンに、現在30名の組合員と賛助会員34名が、「街の活性化」「街づくり」「街の美化」の三本柱で活動を行っています。

宇宿商店街振興組合は、「まちの駅 宇宿」の看板を掲げています。「まちの駅」は、誰でも利用できるトイレを備え、無料で休憩でき、地域と交流・連携する「まちの案内所」です。全国組織である「まちの駅」の鹿児島県の事務局も担っています。

道守活動は、毎月第1日曜日に「組合員」と「青年部」が、活動する区域を事前に選定して、清掃・除草を行っています。活動時には、歩道のバリアフリー、街路灯や防犯カメラなどの「まちの安心安全を守る点検」も同時に行い、必要な改善を図っています。魅力ある街につながる美化活動は、重要なことだと思っています。

今後も「宇宿のまち」が繁栄し活気のある街となり、住みやすい街となるよう、商店街各店が結束・連帯し、貢献していきたいと思っています。

（理事長　河井達志）


毎月第1日曜日の清掃・除草活動





「まちの駅 宇宿」の看板

九州風景街道
令和8年度の活動・取組について

九州風景街道は、令和9年度に迎える20周年を契機として、さらなる魅力向上に向けた多様な取組の検討を進めています。
本稿では、3つのアクションやテーマ別意見交換会の開催等、令和8年度の九州風景街道の主な活動について紹介します。

1 20周年に向けた九州風景街道としての動向

九州風景街道では、20周年を契機に、次の10年につながる新たな展開を目指し、①中長期計画の策定、②20周年記念誌の編さん、③20周年記念行事の企画・実施の3つの取組を重点的に進めていきます。

中長期計画

九州風景街道は創設20周年を契機に、将来像を明確化し持続的な発展を目指す中長期計画を策定します。新たなワーキンググループを設置し、各ルートの意見を踏まえながら、目的や意義を再整理し、次の10年を見据えた組織体制と活動の方向性を検討します。

20周年記念誌

九州風景街道20周年を記念し、これまでの歩みや関係者の想い、今後の展望をまとめた記念誌を編さんしています。玉川委員長をはじめ、関係者や功労者からの寄稿を掲載し、活動の軌跡や将来への展望を紹介する記念誌の刊行に向けて編集を進めています。

20周年記念行事

九州風景街道20周年に向け、各ルートの企画案を基に記念行事を企画し、令和9年秋頃の開催を目指して関係団体と連携しながら魅力を発信します。



記念誌の作成イメージ

2 令和8年度 九州風景街道 3つのアクション

九州風景街道は20周年を契機に次の10年を見据え、持続的な発展に向けた新たな取組みのため、パートナーシップ内外の連携・体制強化を図るとともに、「広報活動の推進」「連携強化・活動推進」「戦略的な活動推進」の3つを重点施策として展開します。

広報活動の推進

認知度向上と活動の活性化に向け、PS内で活動理念や先進事例を共有するとともに、PS外の地域住民や連携団体へ活動の魅力や参画メリットを発信します。さらに、HPやSNS、冊子、動画など多様な媒体を活用し、効果的な広報を推進します。

ルート内外の連携強化・活動推進

地域間連携や地域活性化、後継者不足、活動体制の強化等の課題解決や、各関係期間との連携・協働を推進のため、テーマ別意見交換を継続して実施します。
令和8年度は、「ながさきサンセットロード」と「やまなみハイウェイ」の2ルートで実施し、広域連携の深化と新たな地域活性化の展開を目指します。

九州風景街道の将来を見据えた戦略的な活動推進

20周年を契機に、中長期計画の策定や記念誌編さんの作成、記念行事の企画を進め、次の10年に向けた戦略的な活動を推進します。





令和7年度テーマ別意見交換会の様子


九州風景街道における多様な広報
左:ドライブマップ　右:Instagram

3 テーマ別意見交換会の開催

九州風景街道では、令和6年度から課題解決を目的とした「テーマ別意見交換会」を開催しています。これまで6テーマで議論を重ね、地域資源の再発見や広域連携の強化につながる成果が得られました。令和8年度は「ながさきサンセットロード」と「やまなみハイウェイ」の2ルートで開催予定です。

「ながさきサンセットロード」では、令和6年度から九州西岸に共通する「夕陽」をテーマに3県が連携して取り組んできた成果を総括するとともに、地域資源を生かした広域観光や今後の連携のあり方について議論を深めることで、持続的な地域活性化等につながる成果が期待されています。
「やまなみハイウェイ」では、「沿線地域の魅力再発見」「広域連携による観光ルートマップの作成」「広域観光推進に向けた体制づくり」「観光PRの推進」の4つの視点から企画立案を進めています。本意見交換会で得られた知見を共有・展開することで、九州風景街道全体の連携強化と地域活性化につながることが期待されています。



薩摩よりみち風景街道（R6年度開催）





あまくさ風景街道（R7年度開催）


テーマ：九州西岸共通の風景「夕陽サンセットロード」の3県連携

4 九州風景街道に新ルートが誕生

令和8年3月11日に「しらぬひ風景海道」が、九州風景街道の新たなルートとして登録されました。
登録にあたり令和8年5月31日に「しらぬひ風景海道登録証交付式」が開催され、金子国土交通大臣をはじめ、沿線自治体の首長や関係団体の皆さんにご出席いただきました。第1部では登録証の交付が行われ、「しらぬひ風景海道」が17番目のルートとして九州風景街道の仲間入りを果たしました。
第2部では、PS団体の皆様による地域の魅力PRや100日プロジェクトの説明、熊本大学の田中准教授によるコンセプト発表などが行われ、会場は終始和やかで活気にあふれ、参加者同士の交流も深まりました。これからも沿線自治体や関係団体が力を合わせ、九州風景街道をさらに盛り上げていこうという思いを共有できた、実りある式典となりました。

【第1部】登録証交付式


石原会長挨拶


金子大臣挨拶


金子大臣立会いのもと
石原会長より登録証交付


垣下局長


玉川委員長挨拶

【第2部】交付記念イベント


牧代表挨拶


コンセプト発表




今後の活動意向を発表するとともに、
展望をシールアートで表現


みんなでつくろう
しらぬひ風景海道

NPO運営と地域連携による長崎の活性化への取組

特別非営利活動法人　道守長崎　理事長　**村里　静則氏**



村里静則氏



サンセットロード・うみやま街道交流会

私は長崎県土木部道路関係のOBということもあり、退職後すぐに「道守長崎会議」に参加しました。同窓生の仲間と協力して組織づくりに取り組み、国土交通省長崎河川国道事務所とのつながりを活かして、活動基盤の整備を進めてまいりました。活動資金を受け入れる体制を整えるため、特定非営利活動法人（NPO）の設立にも携わりました。現在は理事長として運営に関わり、とりわけ資金調達を担当しています。土木関係業界の皆様からご協力をいただき、その資金を団体の運営や各種活動に活用しています。その結果、清掃活動や花植えに加え、「橋の歯みがき活動」など幅広い地域貢献活動を展開しております。

さらに、国土交通省が推進する「風景街道」に関連して「ながさきサンセットロード振興会」の設立にも関わり、事務局長として運営に携わってまいりました。活動資金の確保を目的としたマグネットシールの販売や各種補助金の申請に取り組むとともに、県内一斉清掃、高校生ボランティア&フォトツアー、展示会の開催などを実施しております。

また、他地域との交流を通じて得た知見や経験を、長崎の地域活性化に生かしたいと考えております。現在は両団体で活動を続けており、それぞれの強みを生かしながら相互に連携し、地域の魅力向上と活性化に貢献できるよう努めております。

地区交流会（橋の歯みがき）

道守たちのトピックス

横顔

◉道路情報管理官　樋口　恒一郎氏



樋口恒一郎道路情報管理官は、本年4月より中国地方整備局岡山国道事務所から就任。

「道には、いろんな『みち』があります。その『みち』を大切に守っていただいている道守の皆様に感謝申し上げます。これからも皆様と一緒に、地域の『みち』を守り、育てていきましょう。」

◉道路管理課長　福原　茂氏



福原茂道路管理課長は、本年4月より道路部地域道路課長から、現職に就任。熊本県出身。

「道守の皆さんの日頃からの活動に対し、心より感謝申し上げます。これまで皆さんとは、なかなか活動を共にする機会がありませんでしたが、これからは道守活動やみちづくしを通して交流を深めていきたいと思っております。皆さんと連携し、各地域がより魅力的になるように取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。」

令和8年度　緑綬褒状を受章

特定非営利活動法人はかた夢松原の会

はかた夢松原の会は、「水と緑とまちづくり」をテーマに1987年博多湾の埋め立て地百道浜に松の植樹を開始し、1989年海の中道海浜公園で松の植樹と間伐、1997年水源地交流、2012年国体道路花いっぱい運動などの活動を始めて39年が経過し、この度、永年の社会奉仕活動に精励した功績により、緑綬褒状を受章いたしました。

5月25日、国土交通省会議室で伝達式に臨み、皇居「春秋の間」において天皇陛下に拝謁してまいりました。

私たちの活動にご理解とご支援、ご協力を賜りました福岡国道事務所や海の中道海浜公園事務所、一般社団法人九州地域づくり協会、企業、西日本短期大学の皆様のお陰で受章できたものと心から感謝申し上げます。

これからも良い環境を次世代へ引き継ぐために、皆さま方の温かい支えにより、活動を続けて参る所存です。



はかた夢松原の会受章祝賀会

熊本震災に「出来ることからさせていただく」

自然を愛する会　阿南誠志

7月28日熊本震災が起きました。翌29日から被災地へ「自然を愛する会ボランティア支援隊」で連日出向きました。被災者が今何を必要としているか？私たちに何ができるか？です。

まず水を届けました。そして食料です。3日後の31日に氷川町鹿島区公民館で300人分の炊き出しを行い、冷たいそうめんや温かいご飯などを食べていただきました。そして登山技術を活かして屋根のブルーシートを張りました。どれもが私たちが得意するボランティア行動です。

私たちは今回初めて被災した子供たちを阿蘇高原に招待することにしました。地震で怖い思いをしたこと、猛暑の中電気も無くクーラーもない不安で暑い日を過ごしたことを思うと心が痛みました。1泊2日の短い時間でしたが涼しい阿蘇高原でのハイキングやバーベキュー・花火など子供たちは大喜びでした。

これからも私たちは「自分に出来ることからさせていただく」そんな願いを込めて支援していきたいと思います。



給水支援中



冷たいそうめんを準備



メンバーの登山技術を活かしたブルーシート張り







夏休みの思い出になればと、ハイキングやバーベキュー、花火をしました。
シルバーウィークも実施予定！

道守通信 編集後記

◎今年のみちづくし大会は佐賀の上峰町で11月20日と21日に開催されます。

みちづくし始まって以来初めて町で開催し、交流集会は道の駅が会場となります。初めてづくしの今回はどのようになるかとても楽しみです。道守佐賀の皆さんが心を込めておもてなしをされると伺っています。上峰町の歴史や物産に花を咲かせて楽しみたいと思います。

今回も交流会の流れや現地体験学習など詳細に紹介しています。九州各地から参加される道守の皆さんたちと歓談しながら、「みちづくしin かみみね」を堪能いたしましょう。

◎7月28日に発生した「熊本地震」で被災された熊本の方々に心からお悔やみ申し上げます。復旧目前での被災で何と申し上げていいやら言葉になりません。酷暑続きの折、まだまだ大変ご不便でご苦労の日々をお過ごしのことと拝察します。道守くまもとメンバーで「自然を愛する会」の阿南さん達が炊き出しやブルーシート張りなどに大活躍されました。まだまだ活動は引き続き実施されるとのことですが、速報を掲載しています。ページ確保には「道守人物伝」のページを少し譲っていただきました。ご協力ありがとうございました。

熊本地震の情報がありましたら九州会議事務局までお知らせいただきますようお願いします。

◎今年の夏は猛暑と酷暑に見舞われ、雨も降らずカラカラの日々でしたが、9月になって迷走する台風24号の影響で鹿児島、宮崎、大分に大変な被害をもたらしました。8月までは水やりに翻弄され、9月に入り台風に右往左往した方たちも多かったことでしょう。道守活動にとって大変な季節でした。全国各地で災害が頻発していますが、今までの経験を活かしながら対応していきたいと思います。これからはさわやかな秋晴れの下、活動が活発に実施されることを心から願っています。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様（団体・企業）～ ※順不同

一般社団法人　九州地域づくり協会	九州国道協会	(一社)プレストレストコンクリート建設業協会　九州支部
建設サービス株式会社	鹿島建設株式会社　九州支店	大成建設株式会社　九州支店
清水建設株式会社　九州支店	株式会社大林組　九州支店	西日本高速道路株式会社　九州支社
福岡北九州高速道路公社	九州電力株式会社	長崎県道路協会
福岡県道路協会	大分県道路利用者会議	熊本県道路利用者協会
宮崎県道路利用者協議会	佐賀県道路愛護協会	鹿児島県道路利用者協議会
一般社団法人　鹿児島県建設業協会	一般社団法人　長崎県建設業協会	一般社団法人　大分県建設業協会
一般社団法人　福岡県建設業協会	一般社団法人　佐賀県建設業協会	株式会社熊谷組　九州支店
日新興業株式会社	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社	西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
株式会社九州建設マネジメントセンター	福岡市道路利用者会議	一般社団法人　熊本県建設業協会
一般社団法人　宮崎県建設業協会	九州技術支援協議会	サンコーコンサルタント株式会社　九州支社
小田開発工業株式会社	日本振興株式会社　九州支店	アイレック技建株式会社　九州支店
旭建設株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社新井組　九州支店
株式会社安部日鋼工業　九州支店	株式会社安藤･間　九州支店	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	朝日工業テクノス株式会社	朝日開発コンサルタンツ株式会社
いであ株式会社　九州支店	烏城塗装工業株式会社（九州支店）	Fe石灰技術研究所
NTTインフラネット株式会社　九州事業部	株式会社エスケイエンジニアリング	株式会社エンジニアプランニング
株式会社エイト日本技術開発　九州支社	株式会社エスイー　九州支店	扇精光コンサルタンツ株式会社
大分瓦斯株式会社	大分県建設業協会　大分支部	大分県道路舗装協会
株式会社荻島組	株式会社オリエンタルコンサルタンツ　九州支店	株式会社岡崎組　勝盛会
鹿児島土木設計株式会社	株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研　福岡支店
株式会社カンドー	上内電気株式会社	川田建設株式会社　九州支店
株式会社ガイアート　九州支店	一般財団法人　橋梁調査会	九建設計株式会社
九州建設コンサルタント株式会社	九州地区道路利用者会議	九州みちの会
協同エンジニアリング株式会社	株式会社橋梁コンサルタント　西日本支社	株式会社九州開発エンジニヤリング
九州環境管理株式会社	一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　九州支部	株式会社建設環境研究所　九州支社
株式会社建設技術研究所　九州支社	株式会社建設技術センター	株式会社建設技術コンサルタンツ
株式会社鴻池組　九州支店	株式会社国土開発コンサルタント	株式会社コバルト技建
コーアツ工業株式会社	株式会社駒井ハルテック　九州営業所	一般社団法人　佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
株式会社サタコンサルタンツ	株式会社西海建設	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社親和コンサルタント	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
昭和コンクリート工業株式会社　九州支店	JR九州コンサルタンツ株式会社	株式会社ジャストエンジニアリング
株式会社末宗組	株式会社西部技建コンサルタント	株式会社センコー企画
株式会社そよかぜ館（「道の駅大和」）	有限会社測量企画センター	株式会社綜合技術コンサルタント　九州支店
瀧上工業株式会社　福岡営業所	多久市そうじの会（多久の未来を創る会）	宅島建設株式会社
谷川建設工業株式会社	株式会社高山組	株式会社玉の湯
太陽技術コンサルタント株式会社	第一生命保険株式会社　佐賀支社	大日本ダイヤコンサルタント株式会社　九州支社
大福コンサルタント株式会社	株式会社長大テック　福岡支店	中央コンサルタンツ株式会社　福岡支店
株式会社長大　福岡支社	通信土木コンサルタント株式会社　九州支店	株式会社友岡組
株式会社東豊開発コンサルタント	株式会社友岡建設	東急建設株式会社　九州支店
東洋技術株式会社	戸田建設株式会社　九州支店	利光建設工業株式会社
株式会社地域科学研究所	株式会社東亜コンサルタント	株式会社東京建設コンサルタント　九州支社
長幸建設株式会社	株式会社中村緑地建設	南生建設株式会社
株式会社名村造船所　福岡営業所	一般社団法人　日本道路建設業協会　九州支部	株式会社西九州道路
株式会社西田技術開発コンサルタント	株式会社日建コンサルタント	西日本建技株式会社
西日本コンサルタント株式会社	西日本コントラクト株式会社	日本乾溜工業株式会社
日本工営株式会社　福岡支店	日本地研株式会社	西日本技術開発株式会社
日鉄鉱コンサルタント株式会社　福岡支店	株式会社野村建設	葉隠会道守部会
株式会社萩原技研	パシフィックコンサルタンツ株式会社　九州本社	株式会社東九州コンサルタント
株式会社日髙本店	ピーエス･コンストラクション株式会社	福地建設株式会社
復建調査設計株式会社　九州支社	株式会社福山コンサルタント	株式会社冨士設計
株式会社富士ピー･エス	株式会社ぶぜん街づくり会社（「道の駅」豊前おこしかけ）	株式会社丸福建設
前田建設工業株式会社　九州支店	松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社
株式会社三原建築設計事務所	宮崎空港ビル株式会社	宮地エンジニアリング株式会社　福岡営業所
株式会社宮崎産業開発	株式会社水野建設コンサルタント	村本建設株式会社　九州支店
八千代エンジニヤリング株式会社　九州支店	株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス
株式会社横河ブリッジ　福岡営業所	龍南建設株式会社	株式会社　日本ピーエス　九州支店
トミナガコーポレーション株式会社	株式会社ウエスコ　九州支社	株式会社晃和コンサルタント
佐藤工業株式会社　九州支店	永野建設株式会社	
個人会員61名		

発行「道守九州会議」
広報誌「道守通信」秋号
令和8年10月発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331㈹　FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189　FAX.092-414-0767

道守HP　http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/　e-mail　michi-kima@kyugikyo.or.jp